

第3回 金沢駅西広場再整備デザイン検討会

説明資料

平成22年3月17日

【目 次】

■ デザイン検討会の流れと検討内容……………	1
■ 第2回デザイン検討会での主な意見……………	2
■ 駅西広場におけるランドデザイン……………	3
■ 植栽のディテールデザインの確認（案）……………	5
■ 水景施設のディテールデザイン（案）……………	9
■ 舗装のディテールデザイン（案）……………	10
■ 駅西パークゲートのディテールデザイン（案）……………	11
■ キャノピー、シェルターのディテールデザイン（案）……………	12
■ 地下道空間のディテールデザイン（案）……………	14
■ 照明施設のディテールデザイン（案）……………	15
■ サインのディテールデザイン（案）……………	17
■ ベンチのディテールデザイン（案）……………	20
■ 管理棟のディテールデザイン（案）……………	21
■ 駅西広場の全体デザイン……………	22
■ メインストリート付近のデザイン……………	23
参考 計画平面図……………	24

■ デザイン検討会の流れと検討内容

第1回「デザイン検討会」 (平成21年8月12日開催)

《検討内容》

駅西広場の再整備方針、金沢の都心軸におけるデザインイメージから、再整備にあたっての「**デザインコンセプト**」を決定する。また、「**広場内の空間のあり方**」を整理し、個々の「**施設デザインの考え方**」を決定する。

「デザインコンセプト」
…広場整備を行うにあたっての、広場の空間形成や施設の意匠などに関する基本的な考え方

「空間のあり方」
…広場の空間形成に関する基本的な考え方

「施設デザインの考え方」
…広場施設の意匠に関する基本的な考え方

(再整備方針、都心軸のデザインイメージ)

デザインコンセプト

広場内の空間のあり方

・4つの空間（ゾーニング）
(玄関口/主要歩行空間/乗降空間/交流空間)

施設デザインの考え方

・メインのデザイン
(キャノピー/シェルター/植栽/舗装/夜間景観)
・サブのデザイン
(サイン/水景/照明/地下道/エレベーター/
休憩施設、管理施設 等)

第2回「デザイン検討会」 (平成21年11月6日開催)

《検討内容》

第1回目のデザイン検討会で指摘のあった事項を踏まえて、「**デザインコンセプト**」を再確認し、「**広場内の空間のあり方**」を方向づける「**グランドデザイン**」を確定する。

《平面粗図、CG鳥瞰図で確認》

■ デザインコンセプト、並びに
「グランドデザイン」を確認

《地上部・土木構造物》

■ 植栽デザインについて（機能・樹種）
■ 舗装デザインについて（材質・色・点字ブロック）
■ 水景施設デザインについて
■ 照明施設【車道・歩道】
■ サイン【車道・歩道】
■ 休憩施設【ベンチ】
■ 管理施設【車止め・手摺・柵】

ディテールデザイン
で確認を行う。

《地上部・建築構造物》

■ キャノピーについて
■ シェルターについて

《地下部・建築構造物》

■ 地下歩道内装について（トップライト）

※全体のグランドデザインを確認するため、CG鳥瞰図、CGパース（連続的景観で対応）にて検討を行う。
※キャノピー、シェルターなどは、模型を活用してグランドデザインを検討する。

第3回「デザイン検討会」 (平成22年3月17日開催)

《検討内容》

図面や鳥瞰図及びCG画像等を作成し、「**グランドデザイン**」の方向性と「**ディテールデザイン**」の最終確認を行う。
施設の細部にわたるデザインや色、おさまり、具体的な見え方等、「**全体意匠の最終確認**」を行う。

《図面・CG鳥瞰図で確認》

■ グランドデザインの最終確認

《図面・CG画像等でディテールを確認》

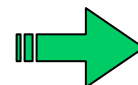
■ 植栽のディテールデザイン
■ 水景施設のディテールデザイン
■ 舗装のディテールデザイン
■ 駅西パークゲート（仮称）のディテールデザイン
■ キャノピー・シェルター（細部デザイン・色）
■ エレベーター上屋（細部デザイン・色）
■ トップライト（細部デザイン・色・照明）

■ 照明施設【車道・歩道】（細部デザイン・材質・色）
■ サイン【車道・歩道】（細部デザイン・材質・色・照明）
■ 管理棟（細部デザイン・色）
■ 休憩施設【ベンチ】（細部デザイン・材質・色）

※CG画像は、施設によりイメージスケッチとする。

■ 第2回デザイン検討会の主な意見

	主な意見		対応	本編反映箇所
グランドデザイン	・基本的なデザインとしては良い。軸線に沿って左右非対称になっているのも人工的でなくて自然に近い広場といえ、広場や水景施設なども駅東広場との対比で異なっており良い。	⇒	●グランドデザインを基本とし、広場中央部のメインストリート部を中心に景観検討を進める。	植栽デザイン、水景施設デザイン、舗装デザイン
	・バリアフリーについても目立たないが金沢らしいデザインを取り入れてはどうか。	⇒	●バリアアフリーを含めその他の施設については主張しすぎないシンプルなデザインを検討する。	舗装デザイン、照明デザイン
植栽	・並木はケヤキとマキという樹種が良い。樹高や樹形、常緑・落葉という対比も面白い。	⇒	●メインストリート部はケヤキとマキの列植により奥行き感を演出できるような視線誘導を行う。	植栽デザイン
	・四季折々の彩を演出できるような樹種を選定し、樹高の変化も楽しめるような工夫をしてはどうか。 ・竹は人為的ではあるが、和を演出する素材として自然を感じさせる広場の中にアクセントとして配置しても面白い。	⇒	●ストライプの植栽帯については四季の変化にも留意した樹種を選定し、グランドデザインにある“水と緑と空”を表現する。	植栽デザイン
水景施設	・駅東広場は用水がテーマとなっているが、駅西広場周辺は元々沼地であり、後には田園地帯であったという背景を演出するという対比で面白い。 ・スイレンは年中綺麗で、ハスは秋以降寂しい印象となるが、自然な形を見せることになり良いのでは。	⇒	●主となる水景施設は四角形のハス・スイレン池を基本とし、詳細なデザインを検討する。 ●ストライプ植栽帯にも水景施設を導入し、潤い演出に資するデザインを検討する。	水景施設デザイン
夜間照明	・照明は高い照明と足元の低い照明を組み合わせ、並木が綺麗に見えるように検討してはどうか。	⇒	●照明は存在を主張し過ぎないように留意し、特に広場中央部については、高い演色性が確保できるデザインを検討する。	照明デザイン
広岡一丁目広場	・彫刻広場という考え方もあるが、台を置かずにそのまま緑が広がっている方が使いやすいのではないか。 ・ゲートを設ける案の場合、ゲートとキャノピーのデザインがバラバラにならないように留意する必要がある。	⇒	●広岡一丁目広場は誰もが使える開放的な空間としてデザインを検討する。 ●広場を特徴づけるゲートについては、存在を主張しすぎないようなデザインを検討する。	駅西パークゲートデザイン
サイン	・バスロータリーが馬蹄形になっているので、利用者の不便がないように配慮する必要がある。 ・サイン計画は広場だけでなく、駅も含めた検討を行う必要がある。	⇒	●サイン計画は駅東広場、金沢駅と統一的な表示とするが、色彩や表示位置等について駅東広場と対比できるようなデザイン検討を行う。	サインデザイン
地下道	・駅から降りて広岡交差点までに上り下りできなくなるので、自然採光と緑化を行う案であるが、構造的な懸案を解消した形で検討を進めて行くべき。	⇒	●構造面も考慮し、光と空間（外気の導入）、緑を演出するデザインを検討する。	地下道トップライトデザイン
舗装	・舗装の素材として石を使う計画のようだが、金沢は色の強い石を好む傾向にあり、彩度の高い石をアクセントとして用いてはどうか。コスト的に高ければ、焼き物といった素材も考えられる。 ・誘導ブロックは黄色を原則としなくても、十分な輝度比が確保できていれば良い。	⇒	●舗装はデザイン性とバリアフリー性を意識し検討する。 ●舗装の素材については、利便性や安全性、景観性に加えコスト面も考慮し、デザインを検討する。	舗装デザイン



上記の意見も参考とし、詳細な個別施設のデザインディテールの検討を行う。

「創造の広場」＝ “都市型・環境型・機能型の美しさを創り出す新しい空間”

都市型デザインの創造

「明るく透明な開放感」「格調と質感」「新都心の象徴」

環境型デザインの創造

「環境負荷の低減」「緑の成長と共に育む広場」

機能型（シンプル）デザインの創造

「自己主張しない機能重視」「色褪せないシンプルさ」「バリアフリー」

人を中心にした人のための広場

■ 明るく開放的な空間デザイン（ランドスケープ）

・駅東広場には「もてなしドーム」と「鼓門」があり、アーキテクチャ（建造物）を中心にデザインされている。
⇒アーキテクチャデザインの駅東広場に対し、駅西広場は明るく開放的な空間デザイン（ランドスケープ）が必要であると考えられる。

駅東広場＝アーキテクチャ



駅西広場＝ランドスケープ



対峙

（コンコース出口からの眺望）

■ 玄関口としてのおもてなし

・金沢駅は、新幹線が開通することにより能登方面の玄関口、さらに日本海の玄関口としての心づかい＝おもてなしの心が必要である。



- ① 人が利用する空間をできるだけ大きくとる。
- ② 能登並びに日本海側の玄関口としてのおもてなし。

駅の歴史や昔の金沢の風景を感じられる広場

■ 駅周辺の原風景を表現

・鉄道が敷かれる以前は、駅や線路を挟んで東側は城下町が形成され、西側は湯の縁から水田やハス田に変化したのどかな原風景（レンゲ・ススキ等）が広がっていたと考えられる。
⇒駅西広場をデザインするための、歴史的なキーワードの1つになると考えられる。



駅と城下町の位置関係

■ 金沢の「和」の雰囲気表現

・金沢駅の発着メロディに琴の音が用いられているように、金沢は歴史的資産を活用した、「和」の雰囲気の表現が各所でなされている。
⇒古くから金沢の背景を担っていた“竹林”や戸室石で作られた石垣も「和」をイメージさせるテクスチャの1つであると考えられる。



竹を用いたフロア



戸室石を用いた石垣



「和」を意識したプロムナード

- ③ 自然の風景、緑の風景、水面の風景を表現。
- ④ 竹や戸室石等、古くからある素材を使用。

職人技が随所に感じられる広場

■ クラフト創造都市の考え方を表現

・伝統と文化を磨き高めてきた金沢は、その保存と継承にとどまらず、常に革新的な息吹を加えてきた結果、「ユネスコ・クラフト創造都市」に認定されている。この、世界が認める「クラフト&フォークアーツ」を情報発信できる空間にするべきであると考えられる。
⇒金沢の伝統工芸：金沢箔・加賀象嵌・竹工芸・流水紋の模様 等

金沢箔



加賀象嵌



竹工芸



金沢友禅（流水紋）



- ⑤ 心憎い「細工」と、粋な「演出」を随所に表現。

【金沢駅西広場 再整備デザインキーワード】

【水と緑と空 ～日本海に開く “ときと自然” の空間デザイン ～】

【金沢駅西広場 再整備デザインキーワード】

【水と緑と空 ～日本海に開く“時間と自然”の空間デザイン～】

植栽デザイン①

「四季折々の花や実・紅葉を楽しむ花壇」

■歩く毎に違うものが見えてくる楽しさ、シークエンスを演出するストライプ植栽。



植栽デザイン④

「ノトクリシマツツジでロータリーを演出」

■能登並びに日本海の玄関口を意識し、これから始まるストーリーのプロローグを演出。



舗装デザイン

「川・大地・森や草原」自然の中を歩くイメージを表現した、ストライプデザインの舗装

- 植栽のデザイン①に合わせ、心地よいリズム感を醸し出す。
- 現代都市が失った、自然の中を歩くイメージを演出。



キャノピー・シェルターデザイン

“おもてなし”を演出した、自然で開放的な軽やかなデザイン

- キャノピーは、軽快な開放感とシンプルでフラットなデザインで結節点を演出する。
- 各乗降場をつなぐシェルターは、機能的でシンプルなデザインとし、明るく開放的な空間を創出し、分かりやすい案内を設置。



植栽デザイン②

竹の植栽

■「和」の雰囲気表現する手段として、古くから金沢の背景を担っていた“竹林”をデザインする。



中部国際空港

東京ミッドタウン（右写真は夜景）

水景施設デザイン

ハス・スイレンの池

■金沢駅周辺は、縄文時代は潟であり、藩政時代の後期より昭和初期までハス田が広がっていたとされている。

■駅周辺の原風景を想像した「ハスとスイレンの池」をデザインする。



植栽デザイン③

常緑樹と落葉樹の列植

■メインストリート部に落葉樹は直線的に、常緑樹は奥行き感を強調した列植とすることで歩行軸を演出する。

落葉樹：ケヤキ 等
常緑樹：イヌマキ 等



ケヤキ

イヌマキ

■ 植栽のディテールデザイン その1 (案)

《植栽デザイン(主木)》



ノトキリシマツツジ



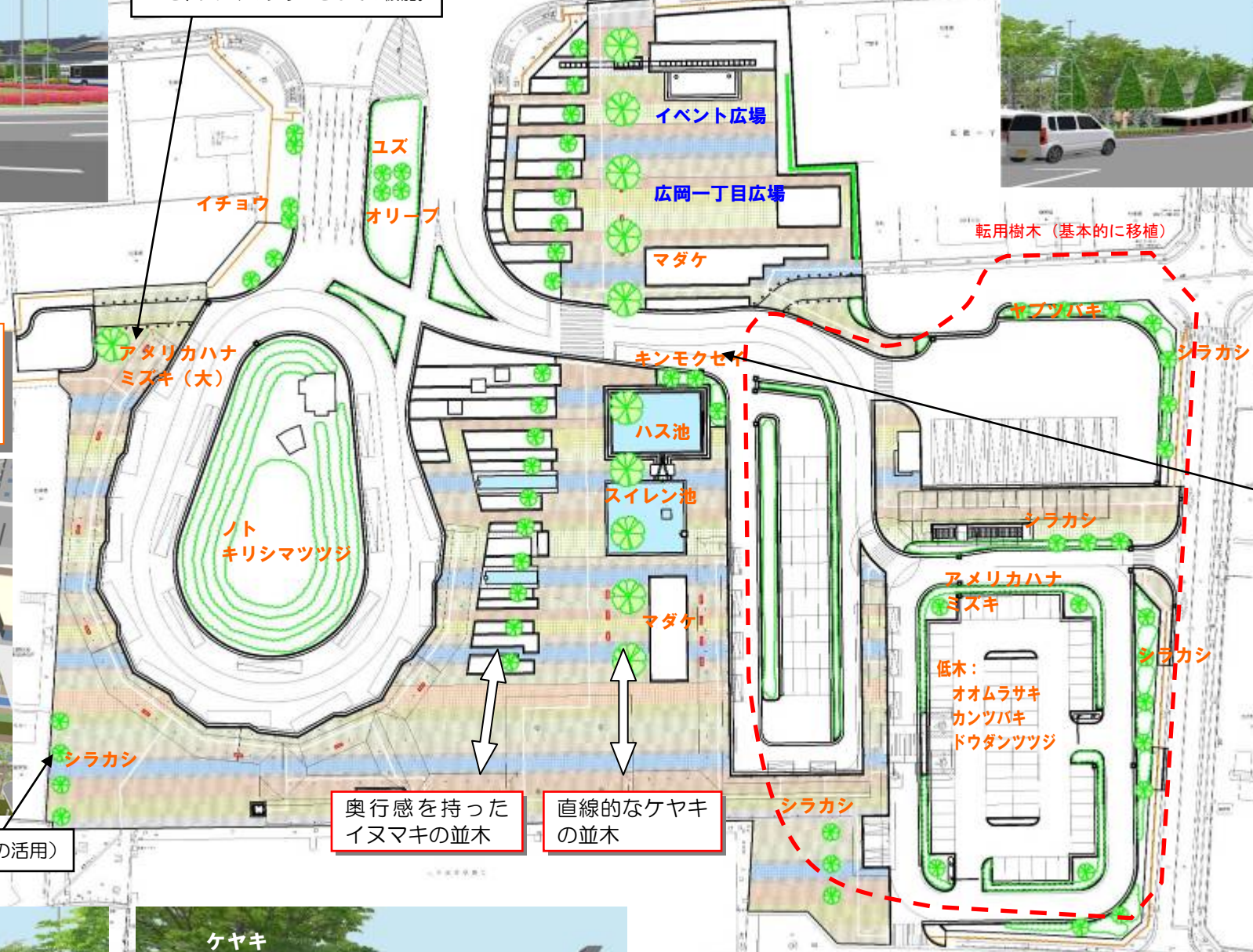
ノトキリシマツツジでロータリーを演出

■能登並びに日本海の玄関口を意識し、これから始まるストーリーのプロローグを演出。



シラカシ：明るい雰囲気常緑樹。(既存樹木の活用)

アメリカハナミズキ：
クルドサックからのアイストップ
と、シンボルツリーとしての機能。



奥行感を持った
イヌマキの並木

直線的なケヤキ
の並木



イヌマキ：
■ケヤキの列植と対照的な樹形を形成する常緑樹であり、金沢では、玄関前や庭に植えられている。



ケヤキ：
■50m道路中央の植栽との連続性の演出。

竹林

■「和」の雰囲気を演出するため、古くから金沢の背景を担っていた「竹林」(マダケ)を整備する。

低 木：

■四季を彩る樹種を植栽する。(オオムラサキツツジ、カンツバキ、ドウダンツツジ等)

イチョウ：50m道路歩道の街路樹
との連続性の演出



イチョウ

ユズ・オリーブ

モニュメント手前足下の演出：

■彫刻を隠すことのない大きさで、実の色や葉の色と合わせ、彫刻手前足元のアクセントを表現する。

ユズ：秋から冬にかけて天気のすぐれない空のもと、常緑の緑と黄色い実による明るい雰囲気演出できる。

オリーブ：葉は一年を通して白っぽい緑であり、地元の種では見られない色合いである。

キンモクセイ：広場からハス池を見るシーンで、背景を形成するために、常緑樹を選定。緑の濃さと花色、香りを表現する。



マダケ

広岡一丁目広場



マダケ

■ 植栽のディテールデザイン その2 (案)

≪植栽デザイン (ストライプ花壇、ハス池・スイレン池)≫

四季折々の花や実・紅葉を楽しむストライプ花壇

■ 四季折々の移り変わりを感ずるため、木が持っている雰囲気、花色、葉色を活用する。

1. ストライプ植栽の基調となる種：地域の自生種
(ススキ、ハギ、ヒュウガミズキ、コアジサイ、ヤブラン、ハマナス、タニウツギ等)
2. 都市的な雰囲気を持つ種：造園木
(オカメザサ、キリシマツツジ、ドウダンツツジ、ボックスウッド、コクマザサ等)
3. 花色が目立つもの
(キンシバイ、ミズアオイ、ティカカズラ、タニウツギ、ユキヤナギ、コデマリ、コクチナシ等)
4. 葉色が目立つもの
(ハツユキカズラ、アサギリソウ等、 紅葉：ドウダンツツジ、コマユミ等)

コクチナシ：30～40cm
常緑低木、初夏（白）



コアジサイ：100～150cm
落葉低木、初夏（薄紫）



ティカカズラ：
10～30cm
常緑蔓性低木
春（白）



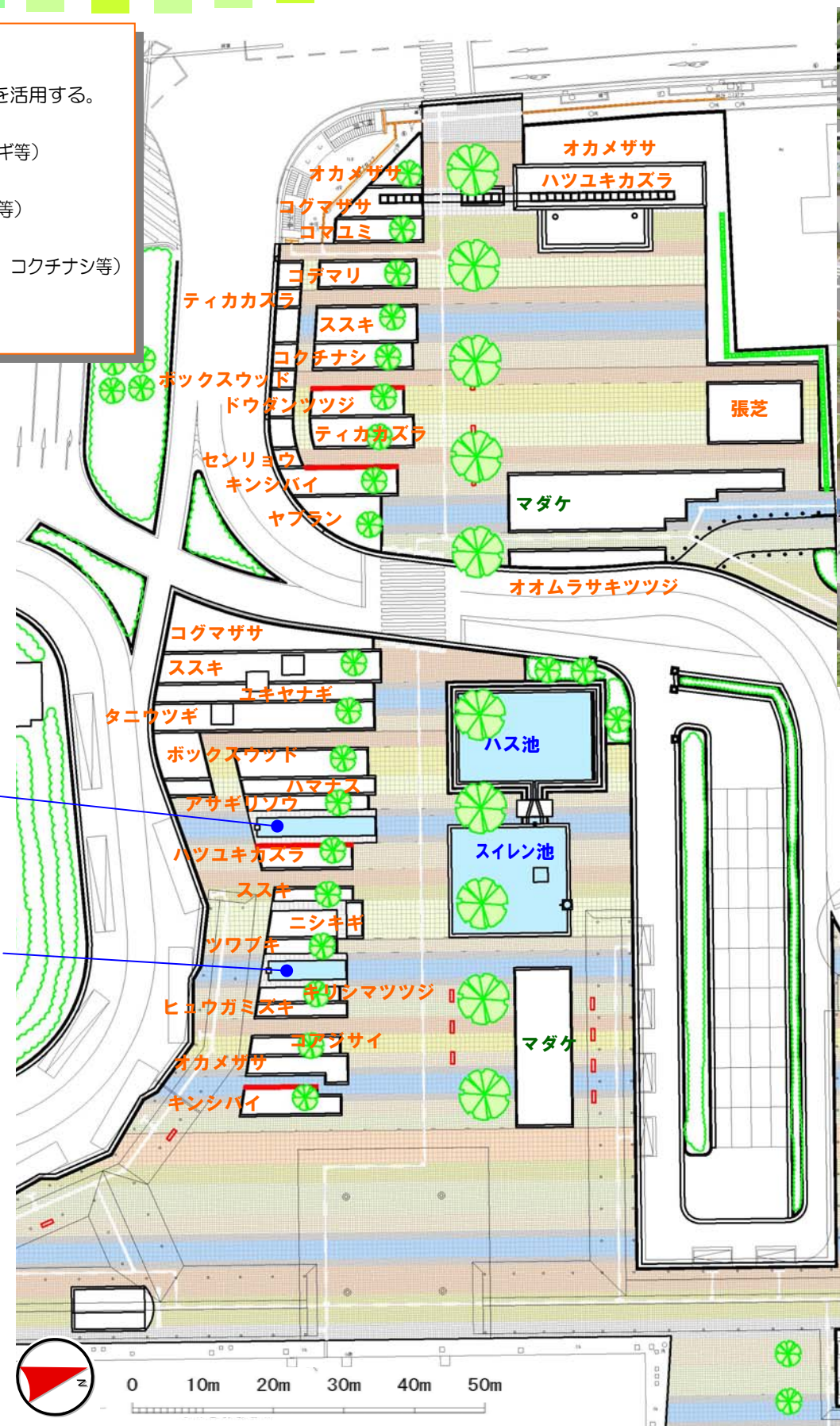
ハツユキカズラ：
10～30cm
常緑蔓性低木、
春（白）



アサギリソウ：20～40cm
常緑多年草、晩夏（黄色）



ハマナス：100～150cm
落葉低木、初夏（桃色）、
実 8-10cm



◆配植の考え方

1. 樹高や草丈にばらつきが出るような配置
2. 基本となる種とアクセントの種が、なるべく連続せず混在する配置
3. 花色、葉色、それらが美しい時期が重ならないような配置
4. 常緑種と落葉種が混在する配置



ハス

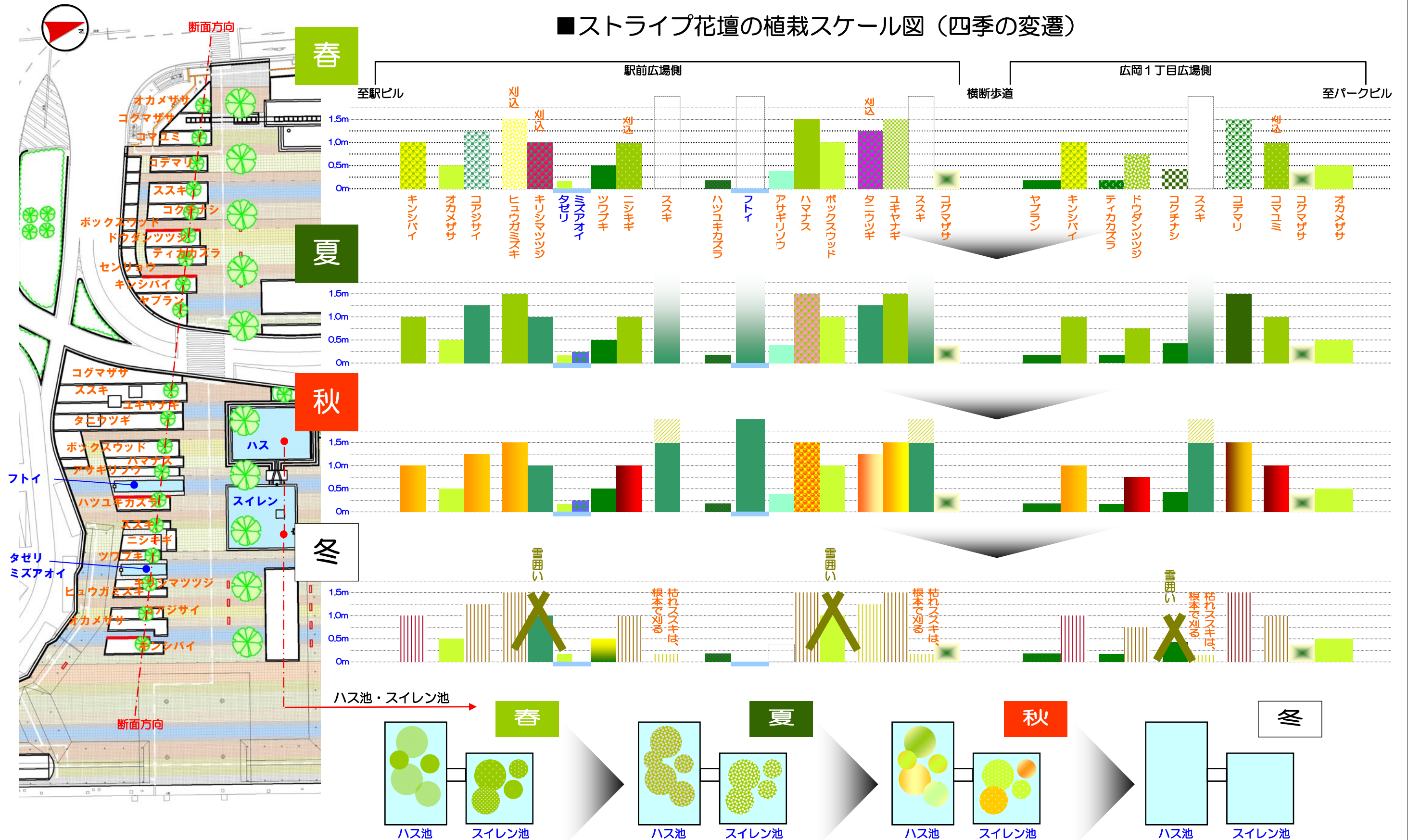


スイレン

■ 植栽のディテールデザイン その3 (案)

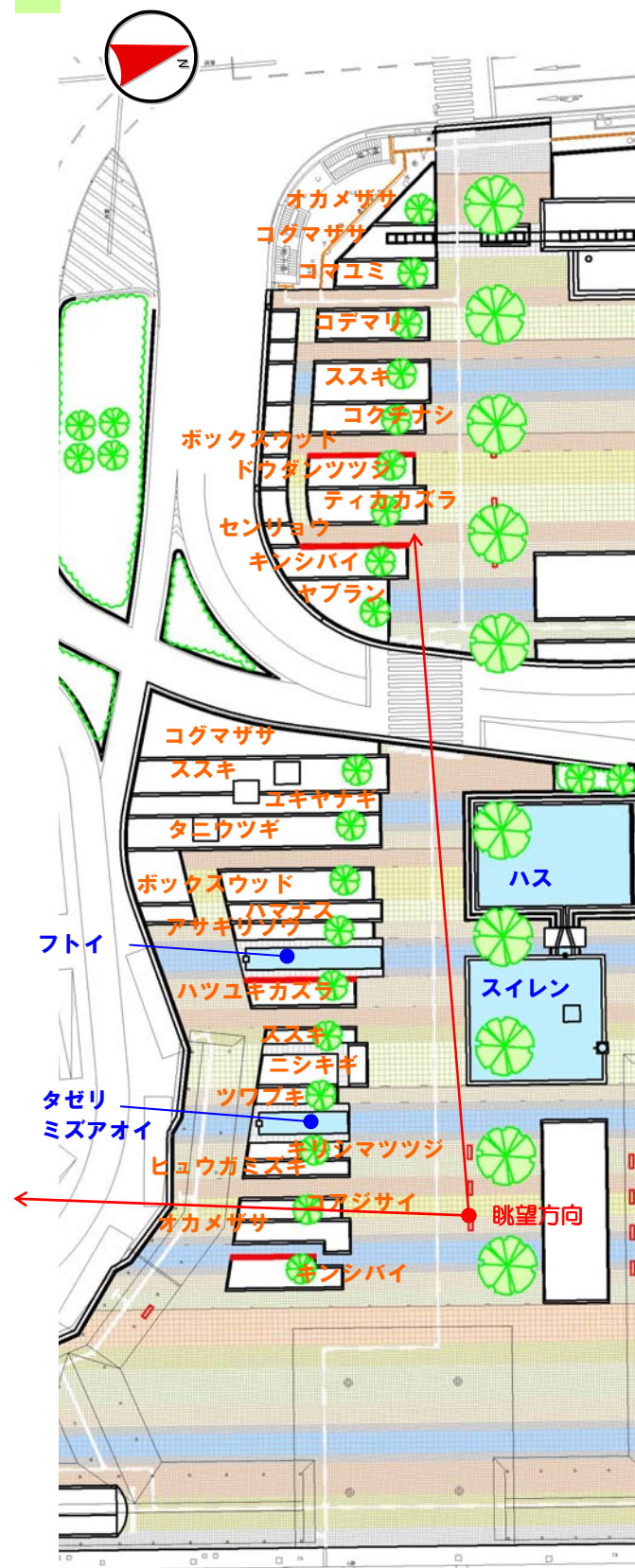
≪植栽デザイン(ストライプ花壇の詳細)≫

■ストライプ花壇の植栽スケール図(四季の変遷)



■ 植栽のディテールデザイン その4（案）

≪植栽デザイン（ストライプ花壇の詳細）≫



春



「春は息吹」

- ・芽が出て、花が咲き、新たな生命の誕生と活力を感じてもらおう「萌」の演出。
（最も花の多い季節）

夏



「夏は躍動」

- ・生き生きとした、生命感を感じてもらおう「蒼」の演出。ハマナスの花がアクセントとなる。
（ハス・スイレンは花が咲く）

秋



「秋は紅葉」

- ・美しく華やかではあるが、儚い生命の尊さを感じてもらおう「彩」を演出。
（ススキの穂が秋らしさにアクセントを加える）

冬



「冬は雪国の景」

- ・冬支度を終えた木々や雪囲い等、雪国である金沢の冬の風景をそのまま演出。
（ツワブキが咲く）

■ 水景施設のディテールデザイン (案)

《水景施設のディテールデザイン》



スイレン池・ハス池のデザイン

- 時代の移り変わりやその時代の風景を想像させる「ハス池」と「スイレン池」を整備する。
- 昔ながらの金沢の原風景を表現する。

ストライプ水景のデザイン

- ストライプ花壇の中に、ゆったりとした水の流れと水生植物（抽水植物）を取り入れ、シークエンス効果を高める演出とする。なお、この池の水の流れのイメージは、青色の舗装パターンに変化して連続していく。

壁面：白ミカゲ
(バーナー仕上)



吐出口・オーバーフロー部：黒ミカゲ
(本磨き仕上)



底打：洗い出し仕上



縁石：白ミカゲ
(バーナー仕上)

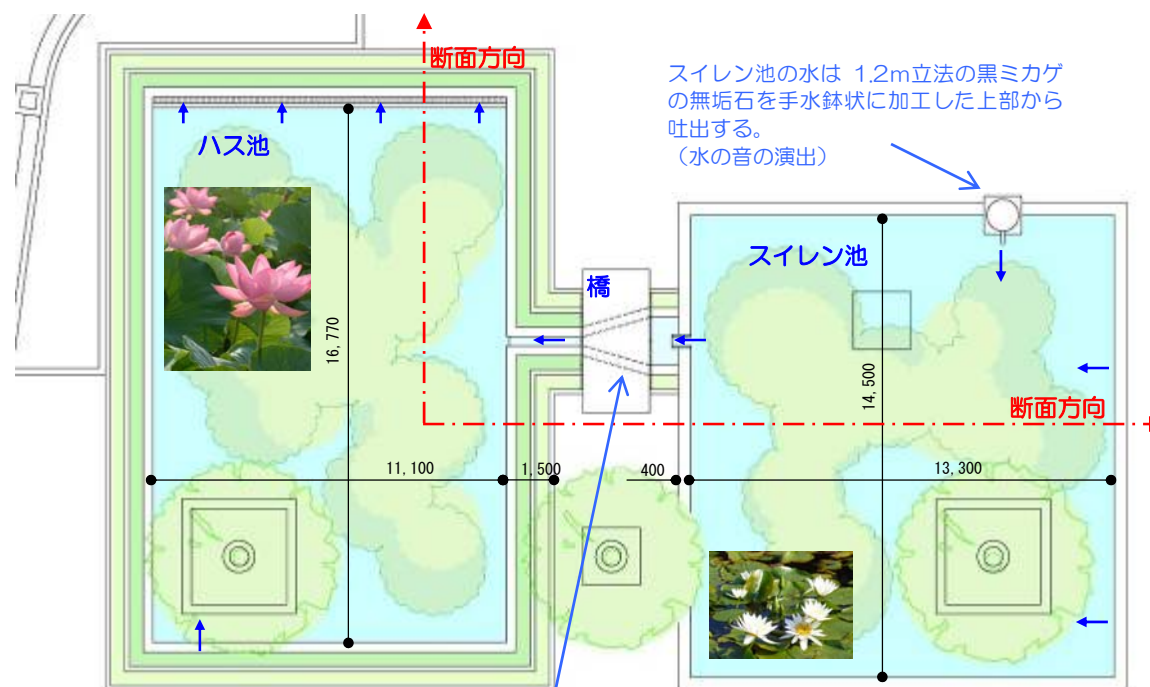


底打：洗い出し仕上

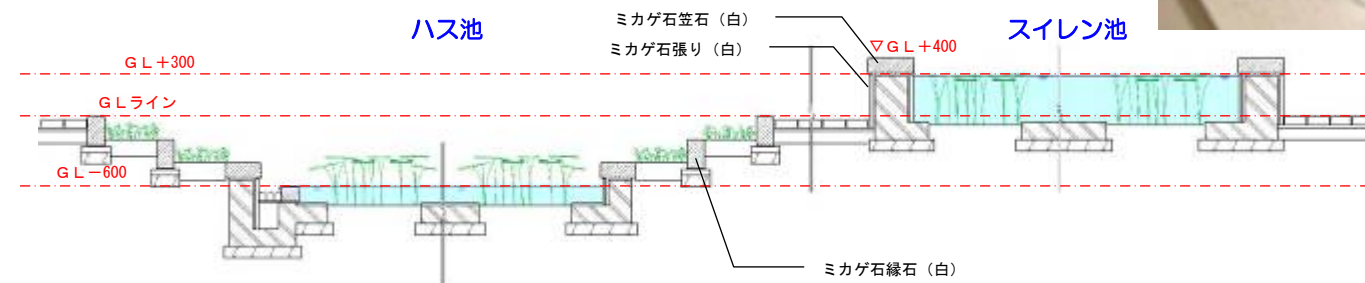


スイレン池・ハス池

構造：コンクリート造／石張



スイレン池を流れた後は次のハス池に流れ落ちる。落差 (90 cm) ミカゲ石の橋からその水が落ちる様子が見える演出を行う。



スイレン池のデザインの説明

- ミカゲ石で縁取られた 14.5m×13.3mの池 (水面は GL+30 cm)
- スイレンが広がる範囲と水の部分を分けて、鯉を泳がせる。
- 四周の壁の天端は腰掛けやすい 40 cm 程度幅と高さにする。

ハス池のデザインの説明

- 転落防止の植栽帯で囲まれた 11.1m×16.77mの池 (水面は GL-60 cm)
- ハスの花が咲く季節には水面 + 1 m まで伸びていることを想定し、水面を地面から 60cm 下げること、少し見下ろしてハスの花を見ることができるようにする。
- スイレン池と同様に、ハスが広がる範囲と水の部分を分けた表現とする。

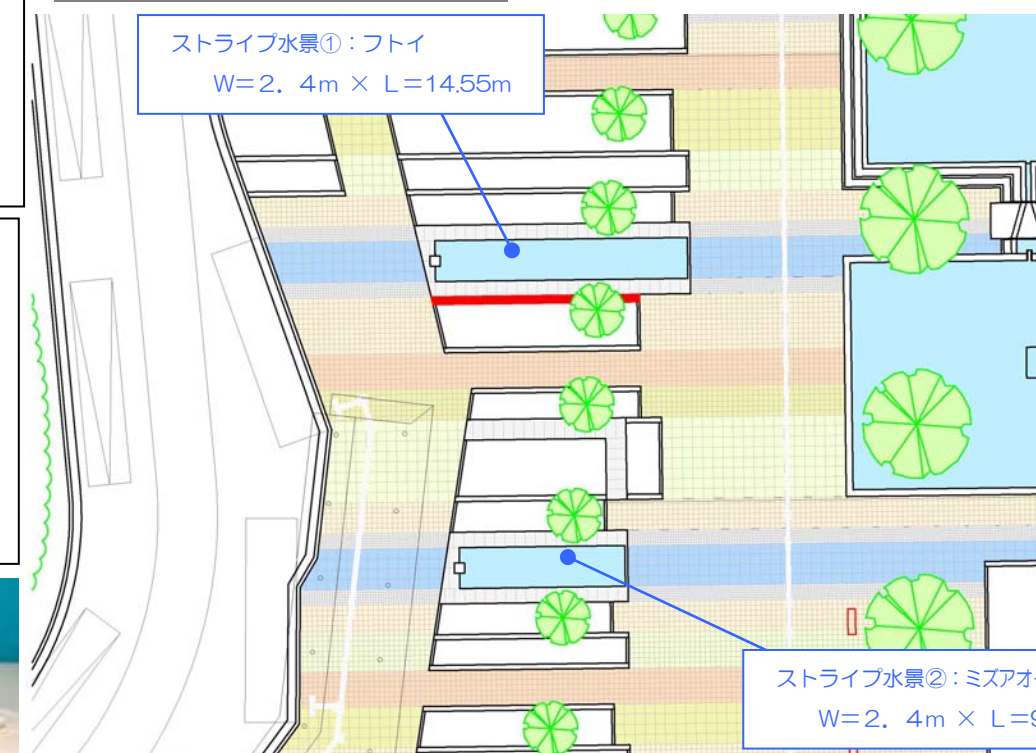
水景施設 (スイレン池・ハス池)



ストライプ水景

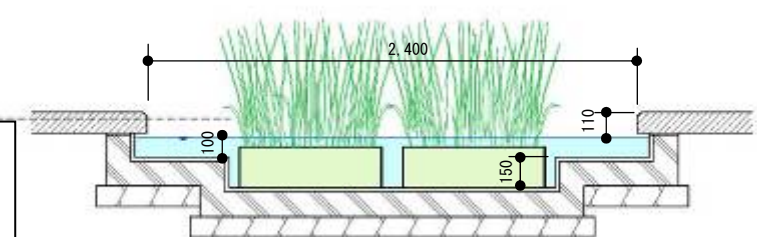
構造：コンクリート造／石張

ストライプ水景①：フトイ
W=2.4m × L=14.55m



ストライプ水景②：ミズアオイ・タゼリ
W=2.4m × L=9.45m

(ストライプ水景断面図)



ストライプ水景のデザインの説明

- ストライプ水景①に植え込む「フトイ」は、2列植えとし、ボリュームのあるラインを表現する。
- ストライプ水景②に植え込む「ミズアオイ」「タゼリ」は、双方の間隔を確保することで、2本のラインを表現する。

■ 舗装のディテールデザイン (案)

《舗装のディテールデザイン》



舗装デザイン

「川・大地・森や草原」自然の中を歩くイメージを表現した、ストライプデザインの舗装

■植栽のデザイン①に合わせ、心地よいリズム感を醸し出す。

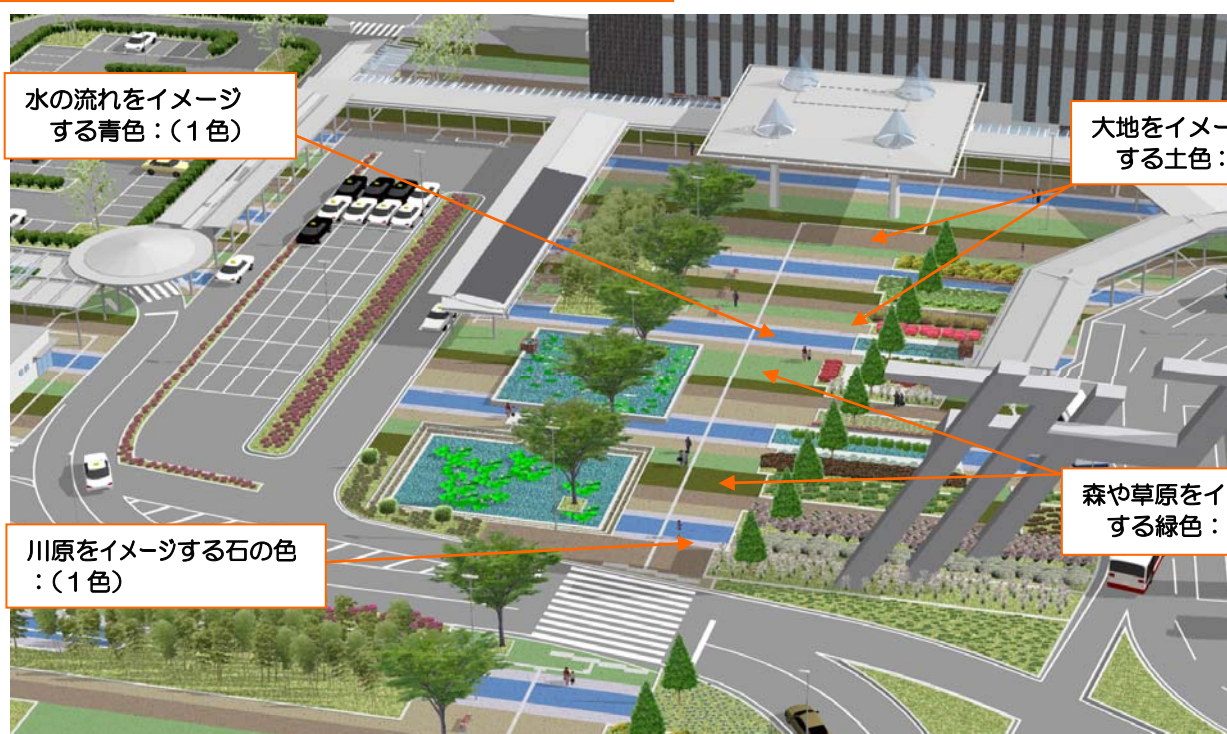
※広場全体の舗装は駅舎に平行に描かれたストライプのデザイン。

※メインストリートを歩く時に、連続して変化する草花の列や水景施設と呼应して、進むごとに変化していく情景を表現。

■現代都市が失った、自然の中を歩くイメージを演出。

※奥行感を強調するように配置された高木の列植とも呼应し、メインストリートに心地よいリズム感と奥行き感を与える。

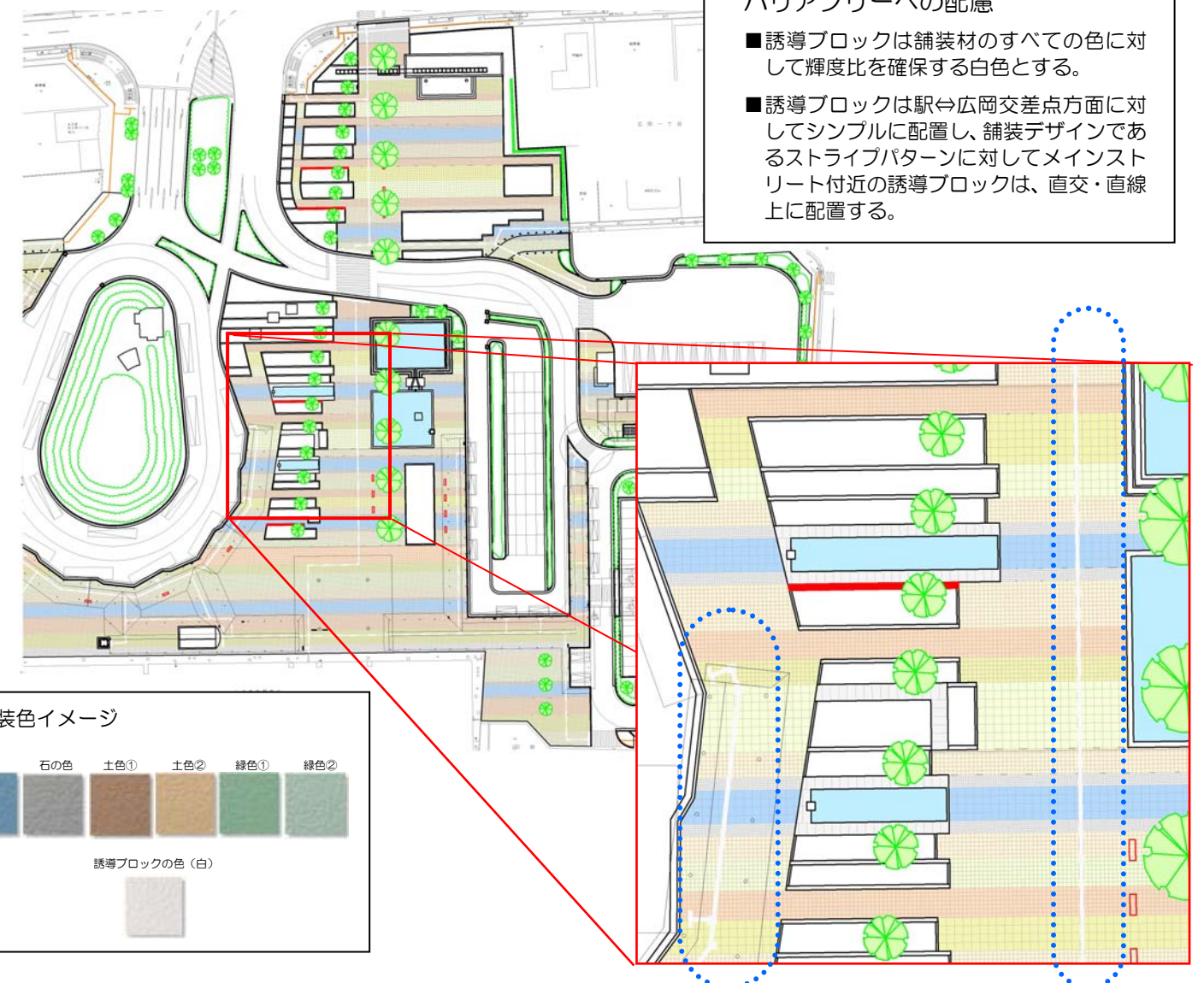
舗装材：タイル舗装＋ミカゲ石舗装



舗装材のデザインの説明

■水の流れをイメージする青色（1色）、川原をイメージする石の色（1色）、大地をイメージする土色（2色）、森や草原をイメージする緑色（2色）の合計6色で表現。
さらに 150 角・300 角・600 角の割付寸法の違いもミックスさせて、舗装パターンに変化をもたせる。

■駅東広場が現代都市を象徴する構造的なイメージであることにに対し、駅西広場は対比的に「緑・水・空」を活かし、自然をテーマとしたイメージとする。その一部の演出として、舗装材としてのストライプパターンの図柄や色を工夫することで、自然をテーマとした駅西広場の床面に「水・大地・植物」を連想させる物語性を与える。



■ 駅西パークゲートのディテールデザイン（案）

《駅西パークゲートのディテールデザイン》



駅西パークゲート

- 駅西パークゲートは、メインストリートの終点に、トラス格子スクリーン（スチール製）を配し、道路と広場の領域を分ける結界機能と駅西広場に入るゲート機能の役割を表現する。
（道路との喧騒を遮断するため、ステージの背景にはプラストガラスの背景壁と、戸室石の低い石垣で金沢らしさを演出する）
- イベント広場のステージ部を覆うキャノピーは、見上げた場合に「薄く軽い屋根」が上空に浮いているようなイメージとする。駅西パークゲートのプロポーションと呼応する表現でもあり、両者がオーバーラップする形体相互の緊張感も大切にしたいデザインとする。

色：塗装

シルバー系

材質：格子

- スチールパイプ（トラス構造）

背面：プラストガラス



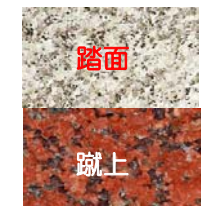
石垣：戸室石



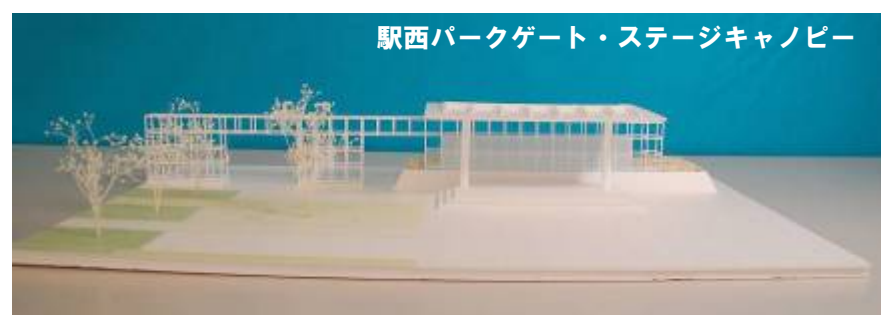
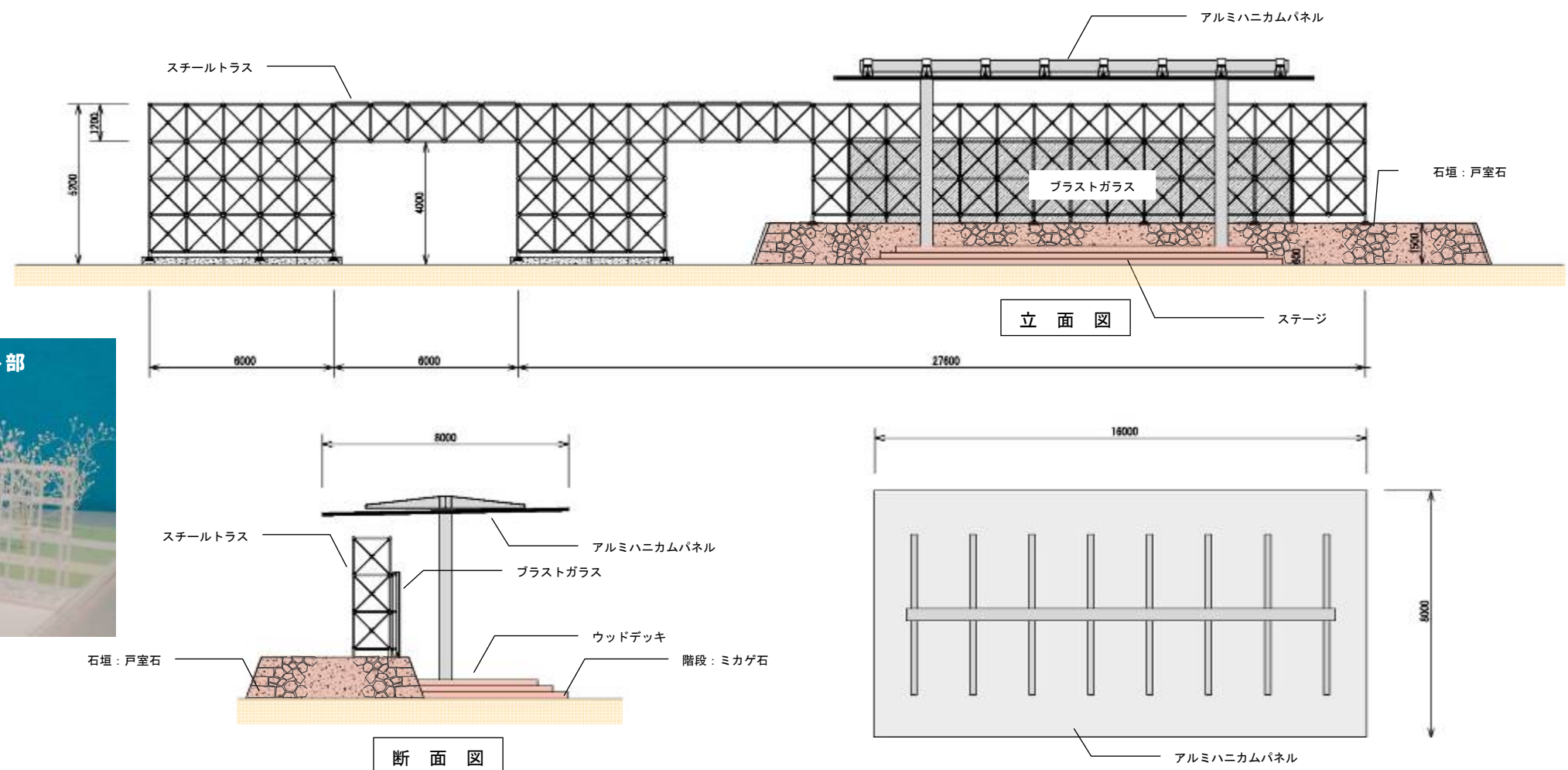
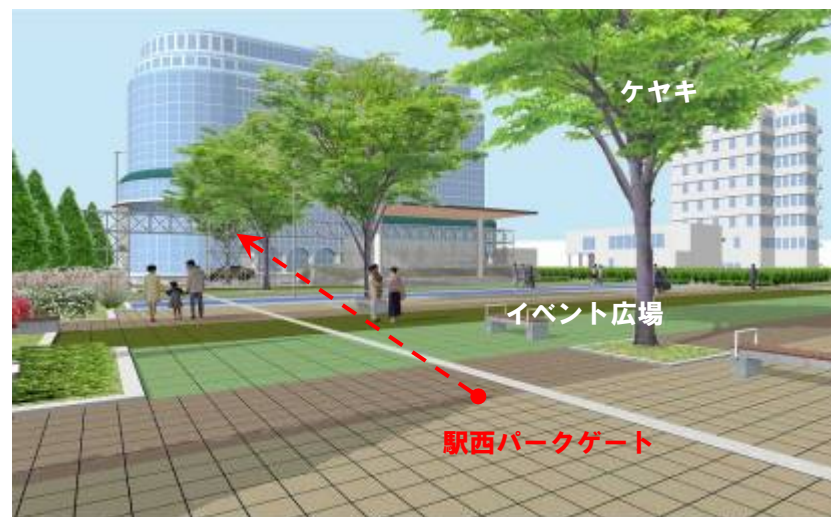
ステージ：ウッドデッキ
（イペ材）



階段：ミカゲ石



構造：スチールトラス構造



※キャノピーの色・素材はシェルターのデザインと合わせる

■ キャンピ、シェルターのディテールデザイン その1（案）

《キャンピ、シェルターのディテールデザイン》



“おもてなし”を演出した、自然で開放的な軽やかなデザイン

- キャンピは、明るいトップライトとして、軽快な開放感とシンプルな水平性の結節点をデザインし、高さを低く抑えるとともに、木目調で金沢らしい和のイメージを演出する。
- シェルターは、機能的でシンプルなデザインとし、分かりやすい案内を設置する。

デザインの説明

- 自己主張しないシンプルな美しいシルエット。
- 格調・質感を持ちながらフラットなライン。
- 明るく開放感あふれるデザイン。
- 柱に金箔を施すなど金沢の工芸の技を演出。

色：屋根・天井
(キャンピ・シェルター)

《屋根》

《天井》

材質：屋根・天井
(キャンピ・シェルター)

- 屋根：アルミハニカムパネル
(フッ素樹脂塗装)

色：柱 (キャンピ)



材質：柱 (キャンピ)

- GRC下地
(モザイクタイル仕上：白)

色：柱 (シェルター)

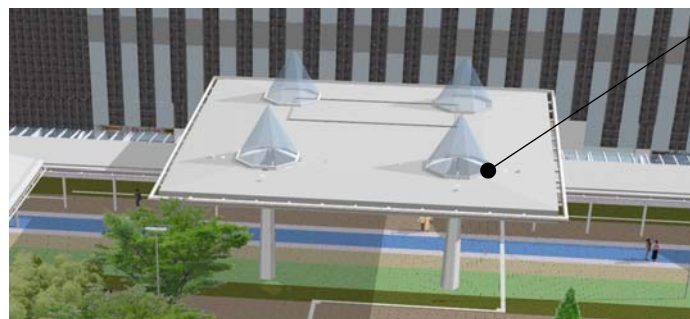
ライトグレー

材質：柱 (シェルター)

- 鋼製
(塗装仕上げ)

キャンピ

構造：鉄骨造



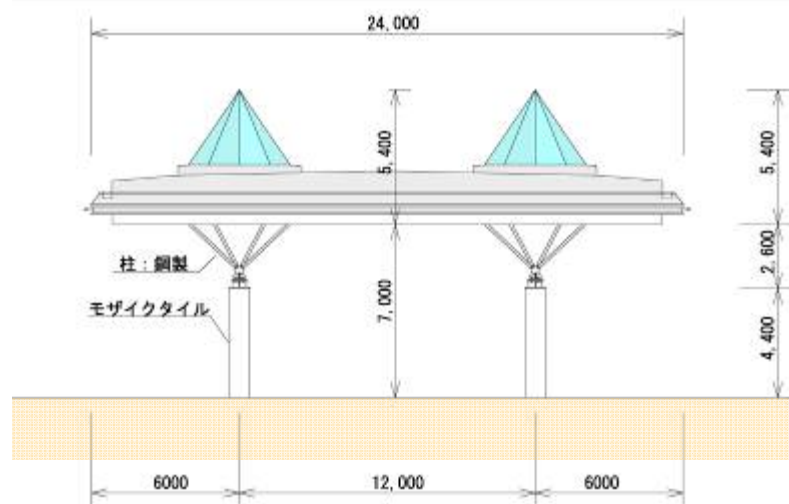
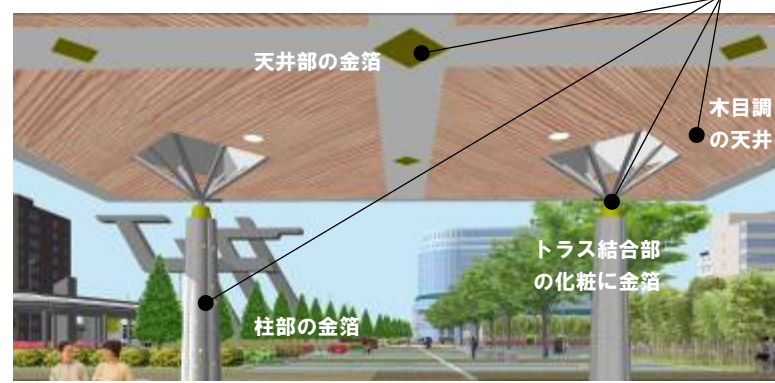
■明るく開放感あふれるデザイン

四方が開放された明るく開放感のある大庇状の造りであり、駅前広場の全体像が見渡せる。4本の柱上部のトップライトから光が落ちる。

天井の意匠は、木特有の優しさや暖かさを活かしたものであり、他都市の駅前と金沢駅前の違いを印象づける。

また、柱や天井には金箔を施すなど金沢らしさを演出する。

キャンピ（全景）



■自己主張しないシンプルなシルエットでフラットなデザイン

24m四方の天井（屋根）を4本柱で支え、複雑なトラス構造は仕上内に隠す。「屋根＋柱」という構造物（キャンピ）の基本要素のみで表現する。

※構造解析の結果、薄い屋根のイメージは少し厚い屋根となったが、天井意匠や先端部の金属のディテールにより、重厚感を解消する。

シェルター

構造：鉄骨造



バスシェルター断面



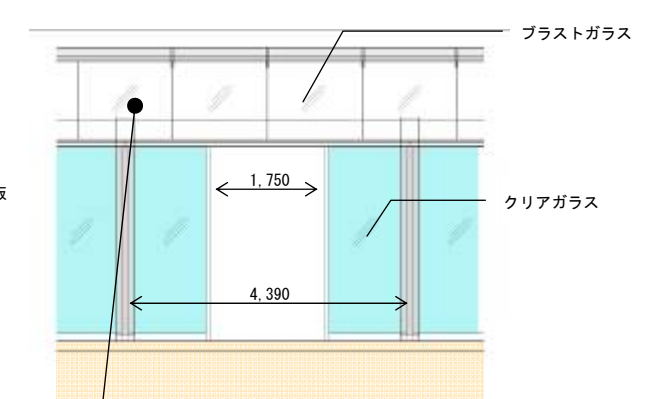
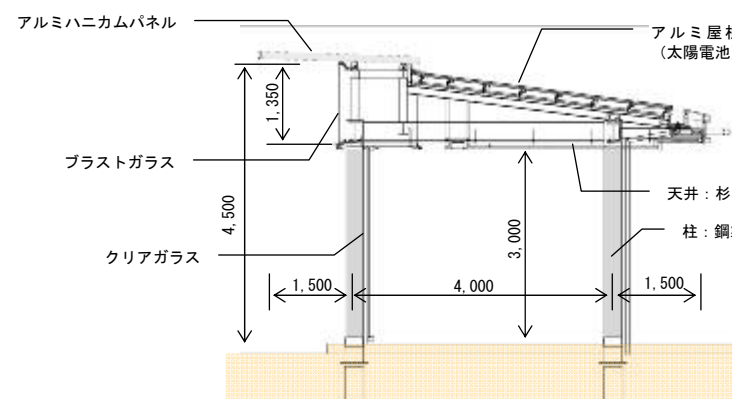
バスシェルター

■シンプルで美しいシルエット

歩道部高さ3m、車道部高さ4.5mを確保する条件の中で全体を低く落ち着いたイメージとする。

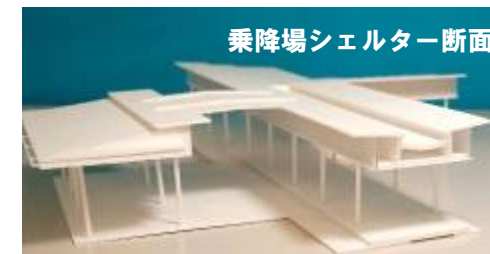
車道側の屋根は、より軽快に見せるために、先端に薄いハニカムパネルを使用。

歩道側の先端部の丸パイプによる屋根のコグチをより細く繊細に見せる。



プラストガラスを埋め込んでいる部分は、通常、金属パネルで納めることが多いが、ガラス素材とすることで、シェルターの屋根全体を軽く見せる。

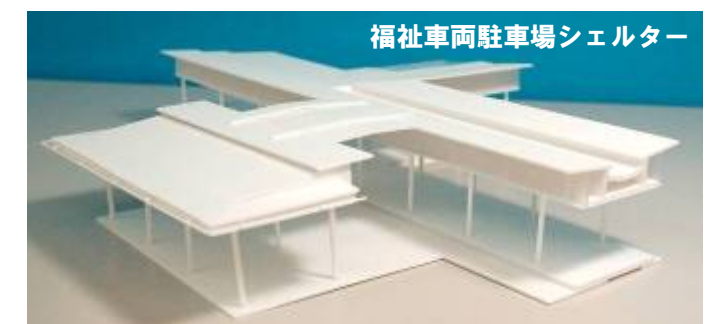
乗降場シェルター断面



観光バスシェルター断面

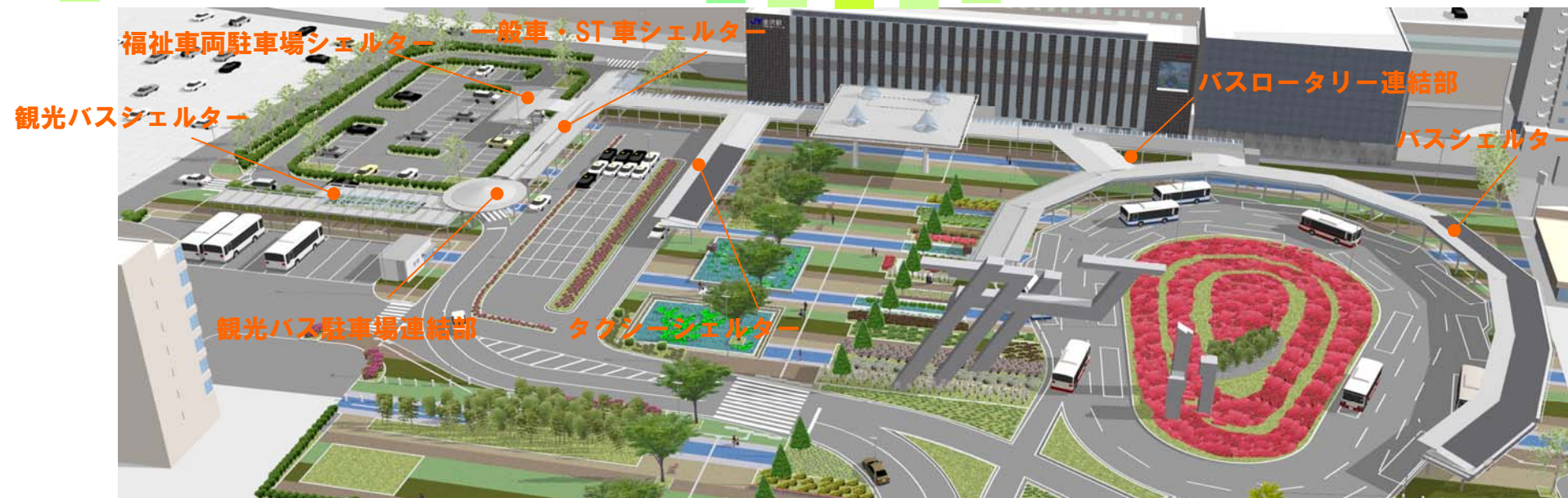


福祉車両駐車場シェルター



■ キャンプー、シェルターのディテールデザイン その2（案）

《シェルター連結部のディテールデザイン》



※基本的にはシェルターの意匠とデザインを合わせる

色：屋根・天井

《屋根》

《天井》

材質：屋根・天井

■屋根：アルミハニカムパネル
（フッ素樹脂塗装）

色：柱（シェルター）

ライトグレー

材質：柱（シェルター）

■鋼 製
（塗装仕上げ）

■バリアフリーへの配慮

シェルターについては、全ての交通施設に対してアクセスできるよう連続して配置する。

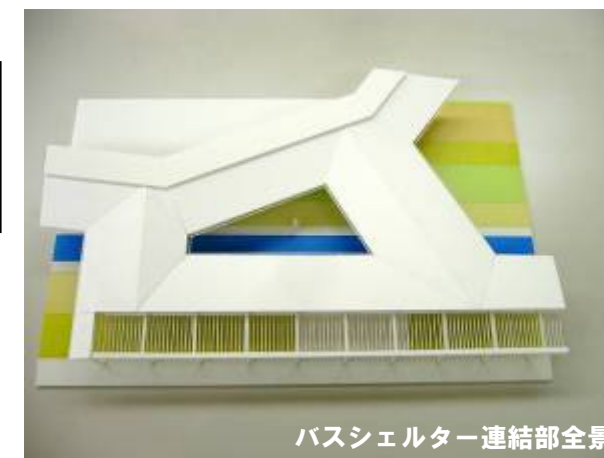
また、車いす利用者駐車場、ST車乗降場にも配置する。

シェルターについては、雨に濡れないよう、車道部に張り出す構造とする。



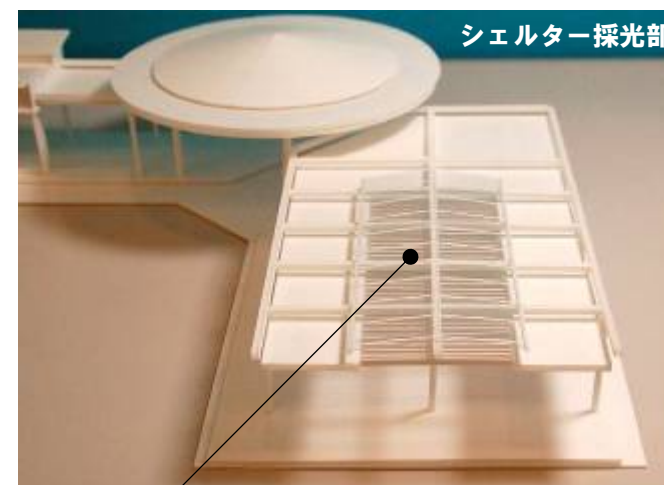
連結部はシェルターのデザインと同じ考え方とする。

- 自己主張しないシンプルな美しいシルエット。
- 格調・質感を持ちながらフラットなライン。
- 明るく開放感あふれるデザイン。



観光バス駐車場連結部のデザインの説明

- シンプルなシルエットで構成されたシェルター同士の結節点を、円形・フラットなデザインで空間をまとめる。



観光バス駐車場シェルター中央部の屋根は、透明ガラスを用い、明るく開放感あふれるデザインとする。



バスロータリー連結部のデザインの説明

- 明るく開放的なデザインとなる様、歩行者動線に影響のない範囲で開口部を広くとる。
- 駅舎側の屋根は、透明ガラスを用い、より明るい空間を目指す。



■ 地下道空間のディテールデザイン（案）

《地下道空間のディテールデザイン》



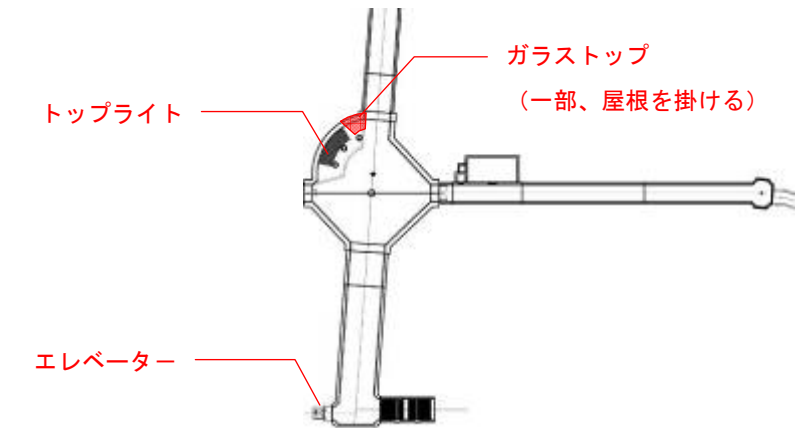
地下空間を感じさせない、明るい環境と外気を感じる空間の演出

エレベーター：四周がガラススクリーンで囲まれた開放的な上屋。屋根はシェルターと同じアルミハニカムパネルとする。

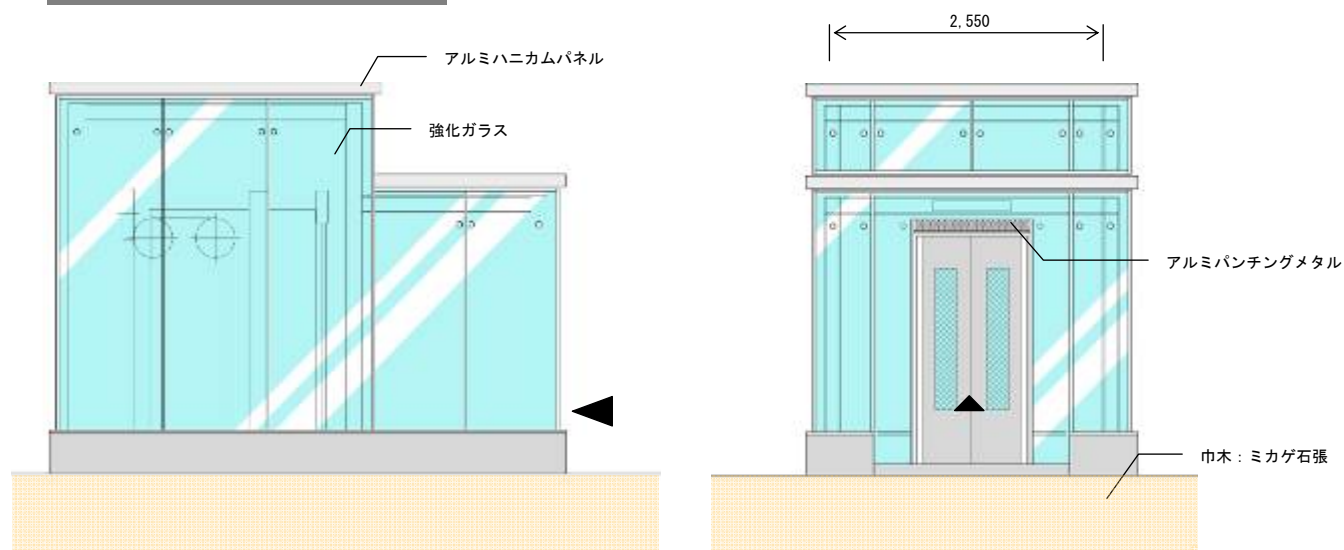
地下道照明：原則、現状のままとする。

トップライト：天然の太陽光と外気を感じる空間とし、地下通路の環境を改善する。光庭にはマダケとジュウモンジンダを植え、その背後の円弧状の壁面は土壁で仕上げる。
(バスロータリーの植栽部分にあたる地上部は、基本的にはオープンとする。)

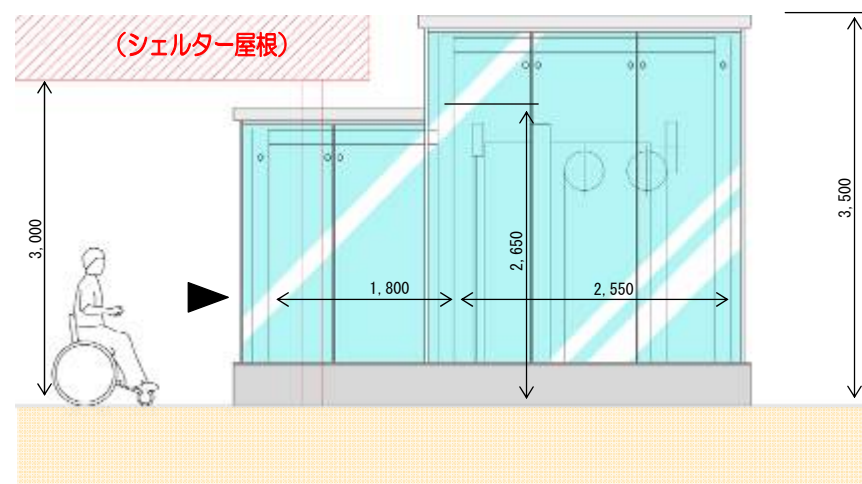
地下道平面詳細図



エレベーター



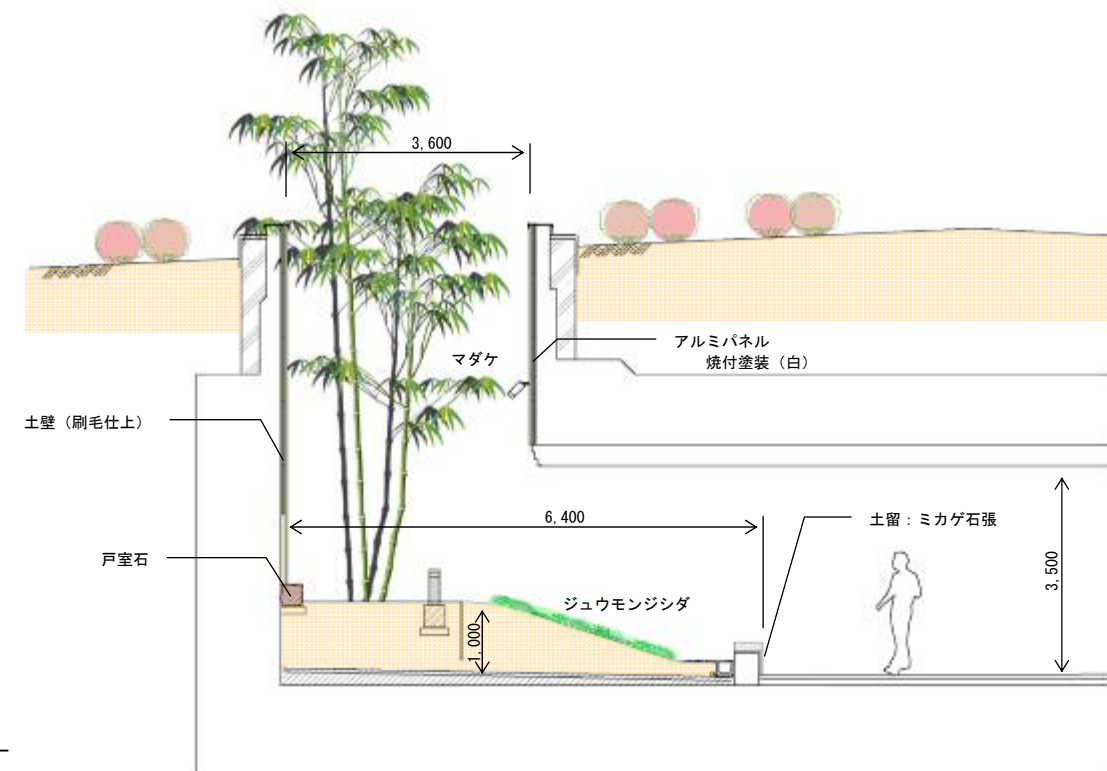
地下道（トップライト）



昇降機は、鋼製の塗装仕上（ライトグレー）の箱型の形状であり、防犯上の配慮から扉部には中の様子が分かる窓を設ける

色：屋根
色：壁
※クリアガラス

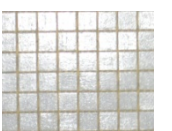
材質：屋根
■アルミハニカムパネル
(フッ素樹脂塗装)
材質：壁
■強化ガラス



色：壁



色：丸柱



材質：壁

■土壁（刷毛仕上）

材質：丸柱

■コンクリート
(モザイクタイル仕上：白)

■ 照明施設のディテールデザイン その1（案）

《照明施設のディテールデザイン》

基本的な考え方

- 照明は、環境に配慮し、シェルター内及びガーデンライト等についてLED照明とする。
- キャンピ内は、屋根が高くなることから、メタルハライドランプにより十分な照度を確保する。
- 広場内は昼間の景観に配慮し、かつ、夜間の光源の存在が気になりにくい10m級のポール照明を使用する。
- 照明デザインは主張せず、キャンピー・シェルターについては屋根の構造に組み込み見え方に配慮する他、各種照明の灯具については、既製品でシンプルなデザインを採用する。
- 良好な夜間景観の形成を図るための夜間景観形成（照明環境形成地域：商業業務地域＋夜間景観形成区域：にぎわい景観創出区域）に、適した照明施設を採用する。（過剰な光の氾濫を防ぎ秩序ある照明環境とし、不快なまぶしさを与えない光源を使用する演色性の高い照明とする）

材質：ポール照明灯（柱・灯具）
■ 鋼 製
（溶融亜鉛メッキ塗装仕上）

アルマイト色

材質：ガーデンライト（柱）
■ 鋼 製
（溶融亜鉛メッキ塗装仕上）

アルマイト色

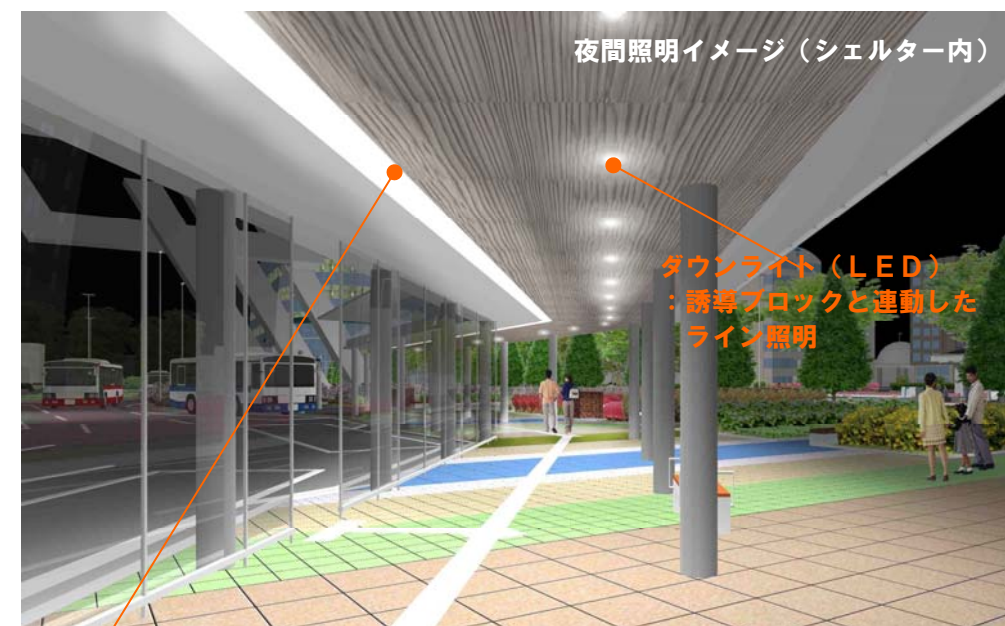


《デザインの説明》

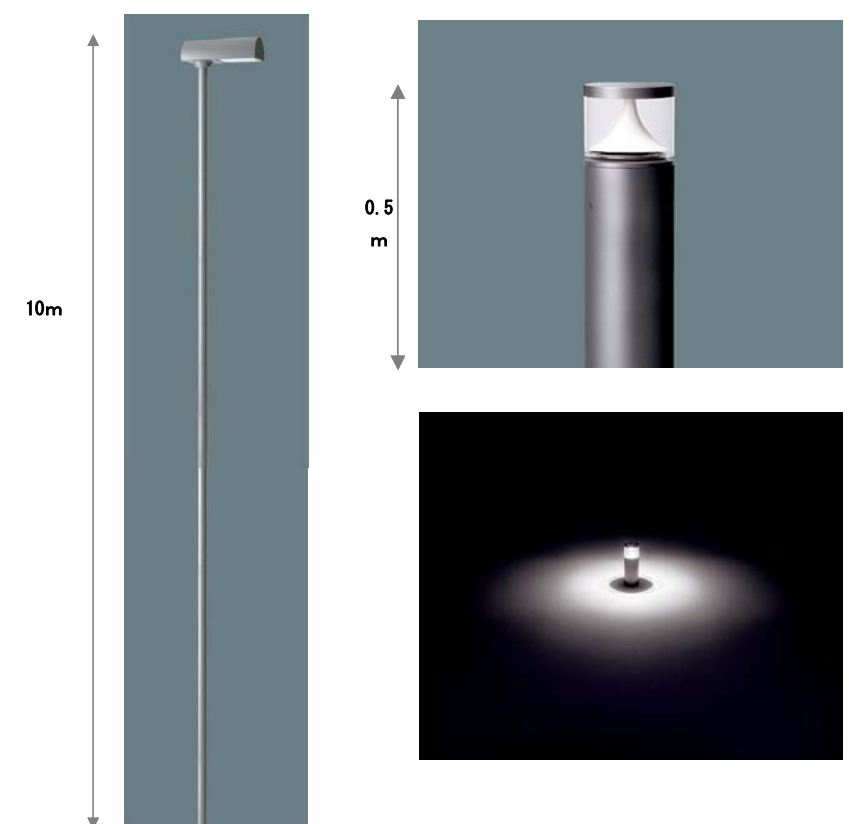
- キャンピー部分は天井にメタルハライドランプを組み込み、広場内メイン施設としての明るさを確保する。
- シェルター部分は天井にLEDを埋め込んだライン照明（LED＋クリアパネル）を基本とし、補完照明としてダウンライトを列状に組み込む。
- シェルター内の平均照度は50lx以上を確保するとともに、誘導ブロックと連動したライン照明により見やすさに配慮する。（バリアフリーへの配慮）
- 広場内の照明ポールは10mポール（メタルハライドランプ）とし、平均照度30lx以上を確保する。
- ストライプ植栽部分については、ガーデンライト（LED）を使用し、規則性を持たせない配置により、ホタルが舞うイメージを演出する。
- 広場の照明は白色とし、色温度は4,000Kを基本とする。キャンピー・シェルターは白色とし、色温度は3,000～5,000Kとする。
- 広場の照明は演色性を高めるため、80Ra以上を確保する。キャンピー・シェルターは70～85Raを確保する。

H=10m ポール照明灯
メタルハライドランプ

H=0.5m
ガーデンライト



シェルター内照明（LED）
：誘導ブロックと連動したライン照明

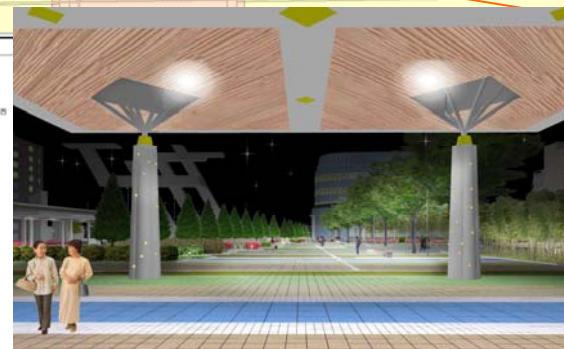


■ 照明施設のディテールデザイン その2 (案)

■ 照明施設の配置図



夜間照明イメージ (シェルター内)



- ポール照明灯 1 灯型 (メカライト ランプ H=10m)
- ■ ポール照明灯 2 灯型 (メカライト ランプ H=10m)
- ガーデンライト (LED)
- ▽ ライトアップ照明 (LED)
- ▲ ライトアップ照明 (既存照明活用: メカライト ランプ)
- シェルター照明 (LED)
- キャンピー照明 (メカライト ランプ)
- ★ 注意喚起用ライト (LED)

竹のライトアップイメージ



注意喚起用ライトイメージ



0 10m 20m 30m 40m 50m

■ サインのディテールデザイン その1（案）

《サインのディテールデザイン》

基本的な考え方

- 駅東広場や県立音楽堂側のサインと統一したデザインとし、ベースを駅西色に変更する。
※. 駅西サインテーマカラーを「時と自然」に合わせ
加賀五彩の「草色」とする。
- 駅西広場側は、大規模な建築物がなく、駅東広場側と異なり柱に組み込むことが難しいことから、基本的に、独立型のサインとする。
- 駅西広場には様々な樹種を配置することから、樹名板を植栽箇所に設置する。

■ バリアフリーへの配慮

総合案内、触地図は広場出入口部に近い位置に配置し、音声案内も併せて行う。
また、触地図や案内・誘導サインは車いす利用者の利便性に配慮した形状とする。

※ 駅東広場のテーマカラーは「臙脂」、県立音楽堂側は「藍」の加賀五彩が採用されている。

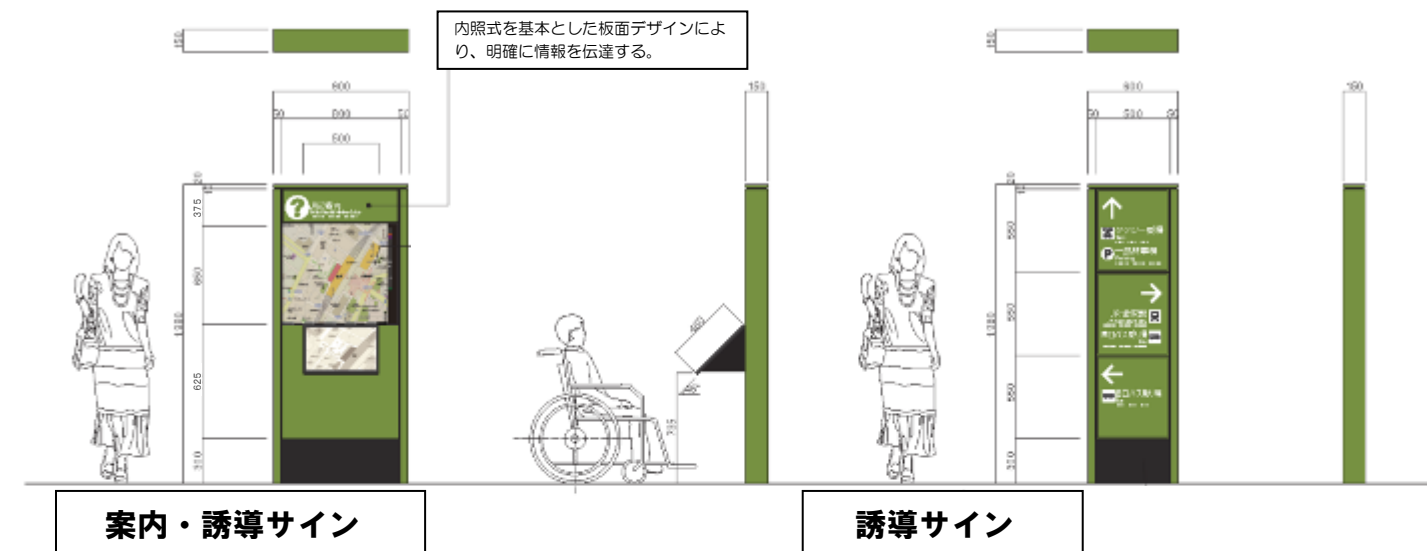
構造：鉄骨下地ステンレス加工塗装仕上

表示：アクリル板インクジェットプリント貼（LED内照用）

駅東広場サイン



県立音楽堂サイン



誘導サイン

■ 文字：表現方法も含め誰にでも解りやすいものを考える。

- ① 文字表記は五カ国表示
日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語（ハングル）
- ② フォントについては、金沢駅・金沢駅東広場のフォントと整合を図る。

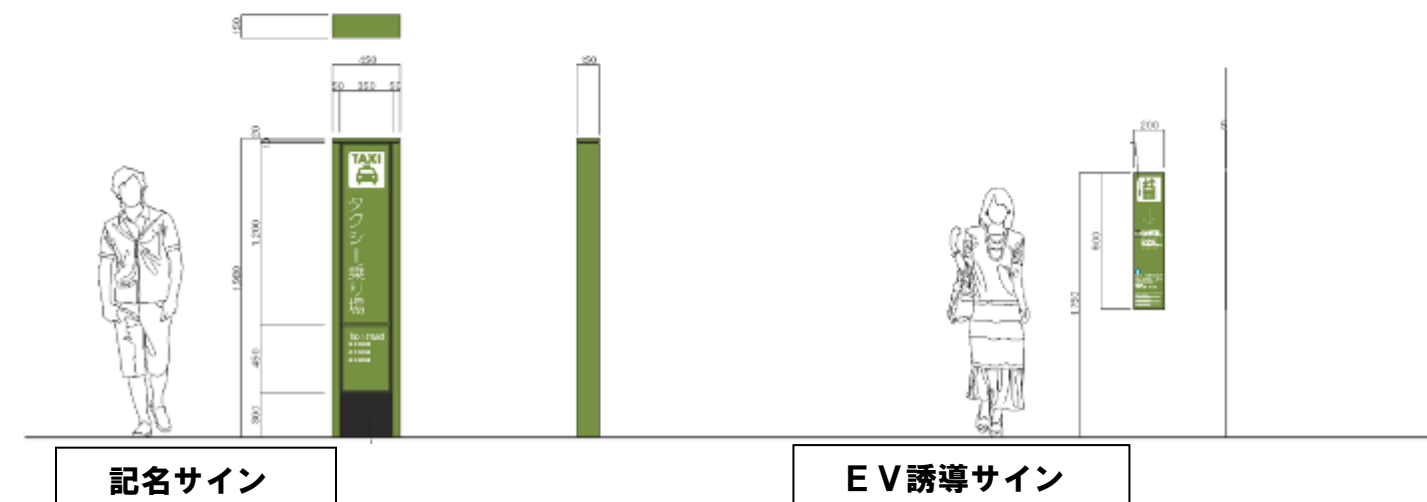
■ ピクトグラム：全国的に標準化されている『標準案内用図記号』を使用。

- ① 全国的に使用頻度が高く、日常的に見慣れている。
- ② ピクトグラムのデザインが非常にシンプルで解り易く、UDフォントと組み合わせて、より解りやすい表現が可能。

金沢駅西広場 バス乗場 タクシー乗場

金沢駅西広場 バス乗場 タクシー乗場
Knazawa Sta. Ekinishi Plaza Bus stop Taxi stop

中国語（繁体字・簡体字） English And Unicode 8.0 Regular
JR 金沢駅 JR 金沢火車站 JR가나자와역

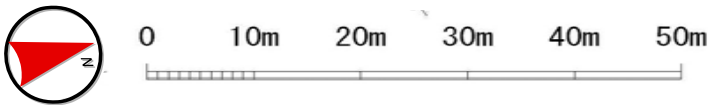


E V 誘導サイン

■ サインのディテールデザイン その2（案）

■サインの配置図：地上部

地上部



■サイン配置の基本的考え方（地上部）

駅西広場の歩道に設置されている誘導ブロックを歩行動線の基本とし、その動線上で誘導案内の拠点となる場所に設置する。

駅西広場の歩道に設置されている誘導ブロックを歩行動線の基本とし、その動線上で誘導案内の拠点となる場所に設置する。

誘導ブロック

誘導拠点

案内・誘導サイン

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と駐輪場等への誘導

案内・誘導サイン

記名サイン 『タクシー乗り場』

記名サイン 『観光バス駐車場』

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と駐輪場等への誘導

誘導サイン

記名サイン 『駐輪場入口・利用形態』

記名サイン 『一般車降車場』

記名サイン 『タクシー乗り場』

記名サイン 『ハンディキャップ用降車場』

記名サイン 『ST乗降車場』

誘導サイン

誘導サイン

各バスのりば等
への誘導

EV誘導サイン

誘導サイン

誘導サイン

ＪＲ金沢駅西周辺の施設案内
駅西各目的地等への誘導

(触地図)

総合案内サイン

・JR金沢駅西周辺の施設案内

案内・誘導サイン

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と駐輪場等への誘導

案内・誘導サイン

記名サイン 『タクシー乗り場』

記名サイン 『観光バス駐車場』

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と駐輪場等への誘導

誘導サイン

記名サイン 『駐輪場入口・利用形態』

記名サイン 『一般車降車場』

記名サイン 『タクシー乗り場』

記名サイン 『ハンディキャップ用降車場』

記名サイン 『ST乗降車場』

誘導サイン

タクシーのりば
一般車乗降場、
駐車場への誘導

タクシーのりは
一般車乗降場、
駐車場への誘導

■ サインのディテールデザイン その3（案）

■ サインの配置図：地下道

地下道



0 10m 20m 30m 40m 50m

■ サイン配置の基本的考え方（地下道）

駅西広場の地下道に設置を行う誘導ブロックを歩行動線の基本とし、その動線上で誘導案内の拠点となる場所に設置する。

← 誘導ブロック



誘導拠点

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と西口広場（地上）
駐輪場への誘導

誘導サイン

記名サイン

『駐輪場入口・利用形態』

現況誘導サインの利用

EV誘導サイン

誘導サイン

案内・誘導サイン

JR金沢駅西周辺の施設案内
JR金沢駅と西口広場（地上）、
タクシーのりば、一般車降車場、駐車場への誘導



■ ベンチの詳細デザイン (案)

《ベンチの詳細デザイン》

基本的な考え方 (ベンチ)

- 自己主張しないフラット、シンプルで美しいデザインとする。
- 2人掛けのスケールとし、手摺りを設け、人に優しいデザインとする。

(腰掛)

- スイレン池の周囲とストライプ植栽の縁に、腰が掛けられるような高さの腰掛けを設置する。

色：座面（ベンチ）



色：構造（ベンチ）



杓打コンクリート

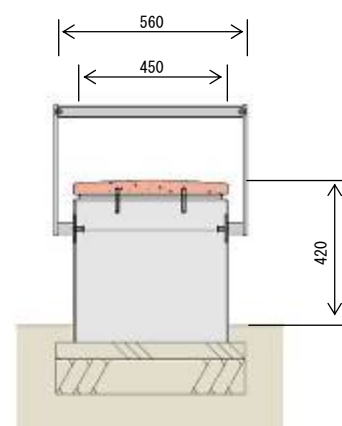
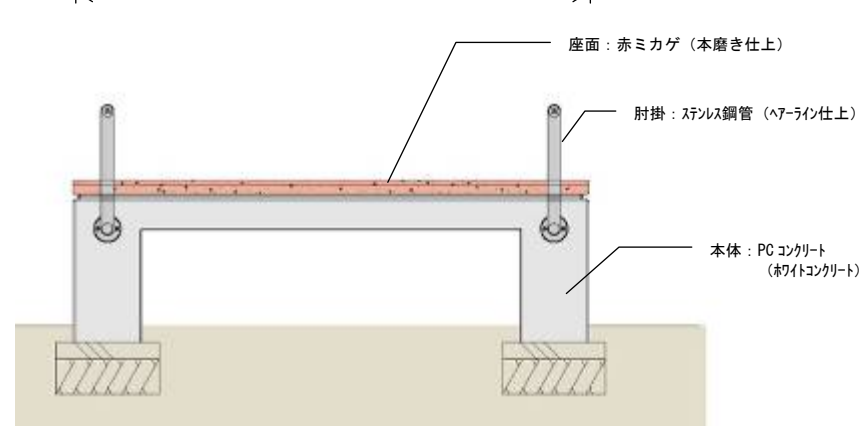
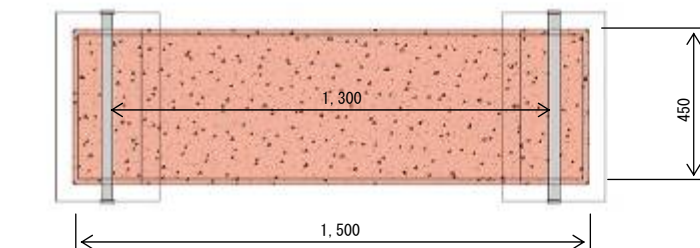
材質：座面

- 赤ミカゲ石
(本磨き仕上)

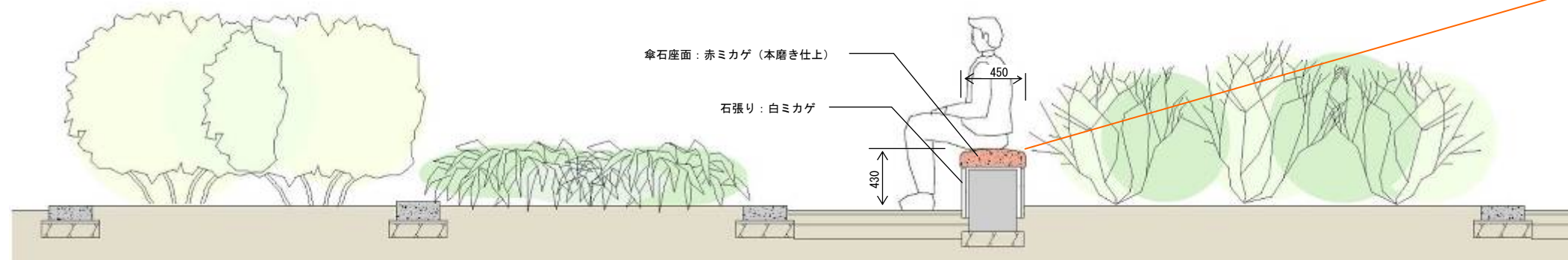
材質：構造

- PC コンクリート

ベンチ



腰掛



色：座面（腰掛）



色：構造（腰掛）



材質：座面

- 赤ミカゲ石
(本磨き仕上)

材質：構造

- 現場打ちコンクリート
(白ミカゲ石張り)



■ 管理棟のディテールデザイン（案）

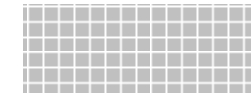
《管理棟のディテールデザイン》



駅西広場の管理棟

- 建築形態はタイル貼りの単純な箱型であり、機能性を重視したコンパクトでシンプルなデザインとする。
（広場全体を管理しやすい位置で、管理棟平面計画も機能性を重視）

色：壁



材質：壁

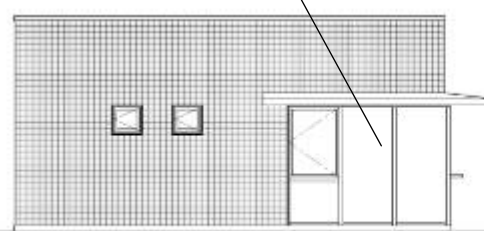
- モザイクタイル
（ライトグレー）

開口部：ガラス

- ガラスティッシュ入複層ガラス
（一部クリアガラス）

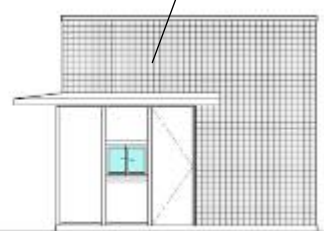
構造：RC造

ガラスティッシュ入複層ガラス



6,900

モザイクタイル

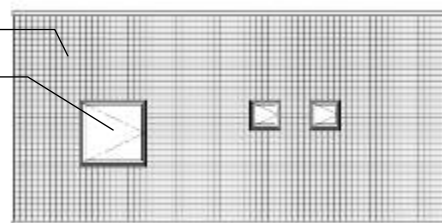


3,500

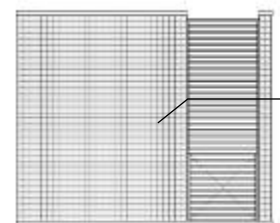
4,000

モザイクタイル

ガラスティッシュ入複層ガラス



モザイクタイル

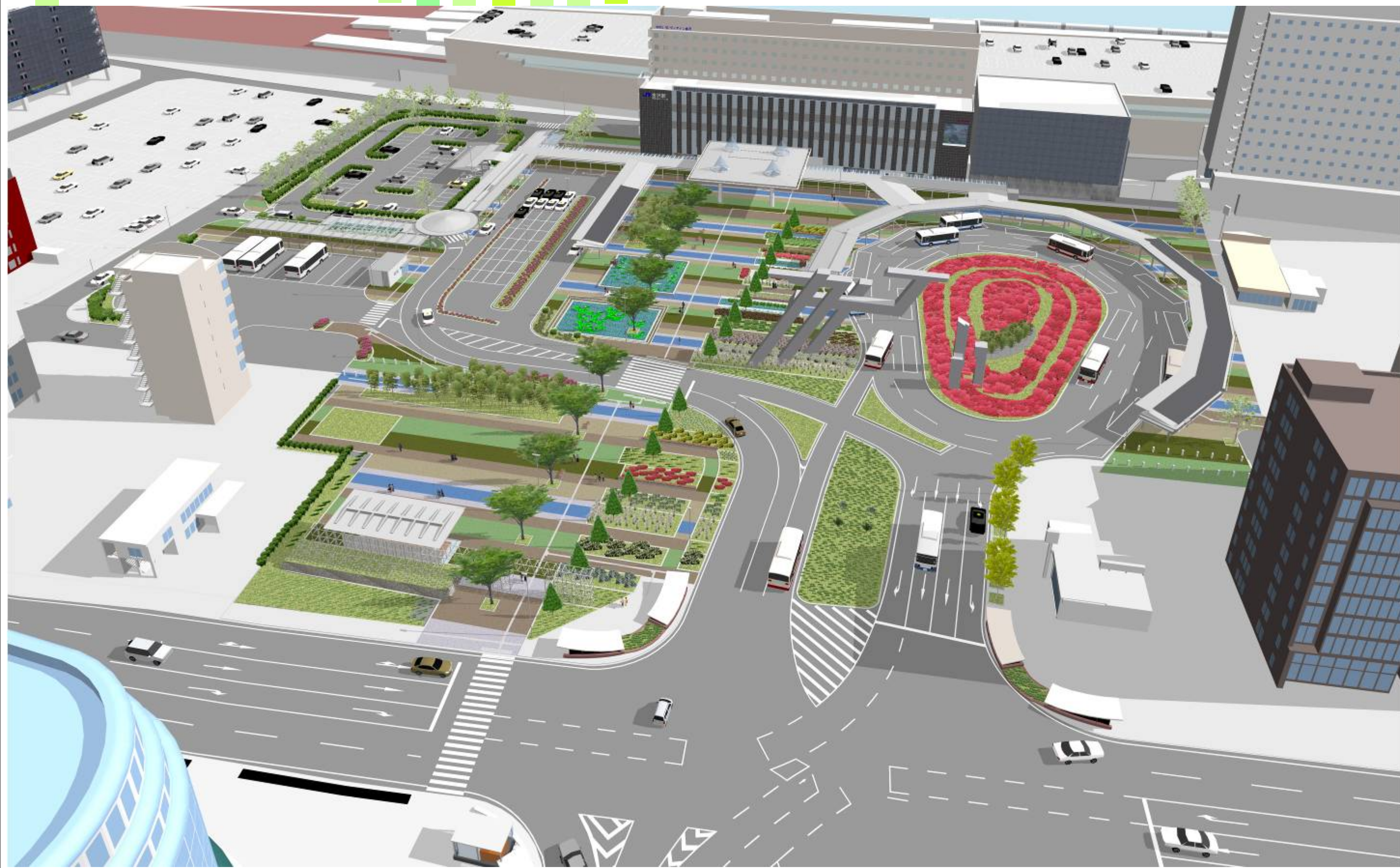


管理棟イメージ



■ 駅西広場の全体デザイン

《駅西広場の全体デザイン：CG鳥瞰図》



■ メインストリート付近のデザイン

《メインストリート付近の基本的な空間構成》

- メインストリートの並木：駅舎に直交するケヤキ並木（右側）と、駅舎に対し微妙な斜めの角度をもったイヌマキ並木（左側）。
⇒見た目にはわからないほどの非対象とすることで、広場に奥行感を演出する。
 - メインストリートの植栽（左側）：各季節を特徴づける低木や草花を、ストライプ状に植栽。
⇒進むごとに異なる草花が重層して次々と見えてくる演出。草花を通して季節感を楽しめる。
 - メインストリートの植栽（右側）：マダケ、スイレン池、ハス池を、ブロック状に植栽。
⇒金沢の風景を特徴づける植物を、ある程度広がりをもって植え、この地の原風景を感じてもらう。
- 以上、高木・低木・草花・水生植物で演出された「駅前広場」は、全国主要都市の駅前広場にはない「時与自然」をテーマとした金沢駅ならではの特徴となる。



竹林

- 「和」の雰囲気を演出するため、古くから金沢の背景を担っていた「竹林」を整備する。



ハス・スイレンの池

- 時代の移り変わりやその時代の風景を想像させる「ハス池」と「スイレン池」を整備する。

四季折々の花や実・紅葉を楽しむストライプ花壇

- 歩く毎に違うものが見えてくる楽しさ、連続景観を演出するストライプ植栽。



メインストリート

「川・大地・森や草原」
自然の中を歩くイメージ
を表現した、ストライプ
デザイン

- 歩く毎に違うものが見えてくる楽しさ、シークエンスを演出する、ストライプ柄の植栽と舗装。

